

まえがき

あなたは、悩みすぎているかもしれない。

自分はどんな職業生活を送るべきなのか。これは、時代が変わってもなくなることがない、永遠のテーマです。この問いに対する決まった正解というものも一つありません。

私は、人材育成の仕事に関わるようになった後、人事コンサルタントとなり、人事・組織の仕組みづくり、取り組みを進めてきました。現在は、経営コンサルタントとして、経営者と一緒に働きがいのある会社づくりに取り組んでいます。私がこれまでに仕事で関わってきた経営者や人事担当者、社員の方の数は、数百社・数万人になります。

それらの経験から断言できることがあります。それは、多くの人が自分の仕事に集中できていないということです。

私たちのキャリア開発で、しばらく前から潮流だと言われるようになったことを二つ取り上げます。一つは、働き方の自由化です。独立、副業、兼業、ギグワーカー、会社と雇用契

約ではなく、業務請負契約を結ぶなど、新しい働き方が注目されるようになってきました。以前は、正社員か非正社員として会社勤め、あるいは個人事業主や起業家として独立、のほぼ二択でした。今でも会社勤めが私たちの職業生活のあり方として主流であるものの、第三の選択肢としての働き方や、会社勤めを少しアレンジしたかたちでの働き方などが可能になってきたわけです。そして、その新しい流れに乗れないと、社会の流れから取り残されるのではないかと不安にさえ思えてきます。

しかしながら、個の力で独立してうまくいく人もいる一方で、うまくいかない人もいます。また、うまくいく人も、入社した会社組織で人材力の基礎を作り、十分な準備ができてから始めていることが多いものです。そのように考えると、「ここではないどこかで別の仕事をするべきなのではないか」と日々迷いながら中途半端に仕事を続けるよりも、目の前の仕事に集中したほうがいいのではないかという見方もできます。このことについての考え方のヒントを、本書では取り上げています。

もう一つは、自分の強みを活かして得意領域で働くということです。仕事というものは、

対価を得るために取引先や組織に奉仕するものだから、好きな仕事を選ぶなどはありません、嫌いなことでも我慢してやるものだ、といった価値観が一昔前までは主流でした。その価値観の中では、他人にできて自分にできないことは、嫌でもできるようにならなければならない、さもないれば取引先、会社、上司、同僚に迷惑がかかる、自分に苦手なことはせめて人並みにできるようにすることを目指す、というのが人材育成の基本的な考え方です。ところが、今ではこうした価値観は働く私たちを幸せにはしないものである、お互いが自身の得意領域で強みを発揮し合って成果を融通し合ったほうが生産性が高いし、お互いが幸せになれるからそうすべきだ、という価値観に変わってきました。この価値観の変化は、私たちの職業生活にとってたいへん望ましいものであると思われます。

しかしながら、この変化によって新たな悩みも出てきています。それは、「自分の得意領域や強みが何かと言われても、イメージできない、わからない」というものです。得意領域や強みをはっきりと認識でき、そこに特化して日々充実感を味わいながら働いている人も一方で、そうした絞り込みができないことが新たなキャリアの焦りにつながってしまったている人も多く見かけます。真正面から「自分の強みは何か」と問いかけても、なかなか答え

が出ないものです。なぜなら、自分の強みは、自分が意識せずに自然にできていることでもあるからです。そこで本書では、自分の弱みに注目するという考え方も紹介しています。弱みに思いきりフォーカスしてみることで、自分が自然体でできていることに結果的に気づくわけです。このことについて、本書では重点的に取り上げました。

人生百年時代です。仮に四十年間を同じ会社で勤続したとしても、残り四十年間で別の仕事に取り組むこともできます。考えようによっては、平成時代より令和時代のほうが、入社した会社の環境・仕事に没頭する余裕があるのです。

キャリアの展開に画一的なルールはありませんし、周りの動きや情報に過度に惑わされる必要もありません。あなたなりの歩み方を見いだしていけばいいわけです。あなたにとって同じ会社勤めを続けるのが最善かもしれないし、環境を大きく変えるのが最善かもしれない。いずれにしても、縁があった仕事や会社に向き合って成果をあげ、周りに認められる仕事をするのは、実は機械やAIに置き換えられない人材力を高めることの近道であり、最善の方法です。「社畜」になるのではなく、良い経験を自分の中で蓄積して「社畜」するのです。

本書の内容は、主に若手人材の方に向けてのメッセージとなっています。まだ職業生活が

始まって間もない状況で、キャリアに関するいろいろな情報に圧倒されてしまい、自分を見失ってしまいそうな日常の中で、仕事や自分に対する視点を変えることで、そうしたモヤモヤへの自分なりの向き合い方を見いだすことができる考え方をまとめてみました。また、若手人材以外の中堅・ベテラン人材にとっても、人生百年時代の残りのキャリアを自分なりにどのように展開していくかを考えるうえで、有益な視点になるのではないかと思います。

本書をきっかけに、あなたが自分自身と対話を深め、職業生活を豊かにするヒントを一つでも多く得ていただくことを願ってやみません。